



第70号 (年4回発行) 編集発行 弘学院大 前学委 弘報 印刷所 (有)小野印刷所

私立大学を取り巻く現状と 本学の耐震工事について

学長 吉岡 利忠



・本学を取り巻く現状

今年、学校法人弘前学院は創立132周年を迎える。弘前学院聖愛中高等学校および弘前学院大学・大学院から集ったOB、OGは4万人近くとなり、津軽地方、青森県をはじめ全国各地で活躍している。弘前学院短期大学創立以来68年、さらに4年

制大学開学以来47年の月日が流れた。揺るぎない伝統を積み重ねて今日に至っており誠に誇れることである。

さて、地方私立大学として弘前学院大学の取り巻く現状について、いくつかのデータに基づいて述べてみる。我が国の私立大学599校、短期大学331校を運営する学校法人は600法人を数える。1992年(平成4年)の規制緩和により約380校だった私立大学は一気に600校近くに増えた。大学数も増えたことから定員数も増え、

現在に至っている。

マスコミなどで見聞きするが、我が国は少子高齢化社会とともに本格的な人口減少社会の到来の様相を示している。それと同時に大学入試にかかわる18歳人口も大きく減少し、2005年(平成17年)には約137万人であったが2016年(平成28年)には約119万人、その数年後には100万人を切るという。青森県の18歳人口も激減しており、2015年(平成27年)では13,314人、10年後には1,020人になる。本県の大学進学率を見ると2016年度(平成28年度)の分析では37%、専門学校では15%、短大では5%である。ちなみに大学進学

率の上位を見ると、東京64%、京都61%、神奈川57%、広島56%と続き、青森とは20%の開きがある。青森県には国立公立大学3校、私立大学は北里大学獣医学部を加えて8校ある。もちろん他県からの受験生があるものの、県内私立大学の学生募集などについては厳しいものがある。

への真摯な姿勢、受験生からの忌憚のない質問に対する対応、グループによる肩が張らないコミュニケーションなど、これらのことはアンケート結果に良く反映されている。

・日本私立大学協会

私立大学が加盟する団体は、日本私立大学協会(大沼淳会長、407校)および日本私立大学連盟(鎌田薫会長、128校)があり、本学は日本私立大学協会の会員である。毎年、春季および秋季に総会が開催され、70年以上にわたりその時々の私学を取り巻く環境に則した課題に対して助言・支援、検討、政策提言などが展開されてきた。総会では、多くの場合、文部科学省高等教育局長の基調講演がもたらされ、私立大学に特化した貴重な施策などが報告される。

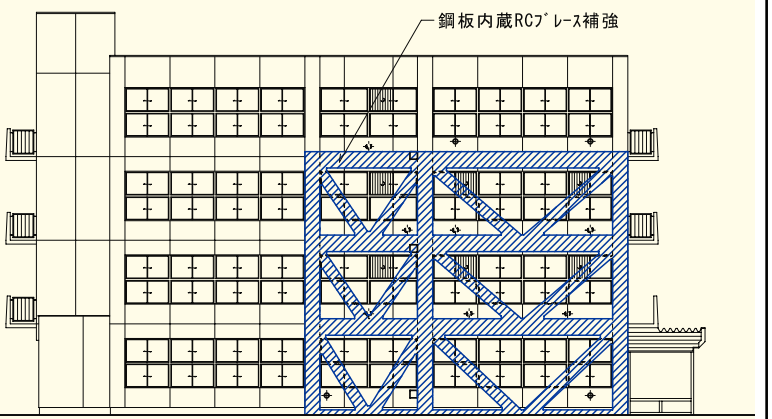
特に我が国における私立大学はその6割強が地方に立地しており、地方私立大学のさまざまな意見や要望などを中央に訴えることができるということは本協会の強みであり、実際に数多くの施策に反映されている。近年、地方小規模大学において最も重要な課題は、地方私立大学に配慮した環境整備・弾力的運用、私学助成(経常費補助金)、18歳人口急減期への備え、教育の質の向上、特に地域の特質を活かす人材は地域の大学で育成することの再認識、地域とのコミュニケーション概念の向上などである。毎総会には、分厚い(400ページくらい)「私立大学を取り巻く諸情勢資料集」が配布され、その都度、要旨を会議などで報告し情報を共有するよう努めている。今回の春季総会は3月27日(火)に予定されている。

・本学の耐震工事

稔町に位置する弘前学院大学は長い年月を経過した。校舎は過酷な自然に晒され外装ももうであるが老朽化を逃れることはできない。これまで校舎は十分効率よく利用されてきたが、やはり、学生、教職員が安心して教

育・実習などを受けま た仕事に励む環境が必要である。津軽地方は地震の発生は少ないもののその発生予測は難しい。国では私立大学施設の耐震化などの防災機能強化を進めている。予算も平成30年度要求

大学2号館補強完成図(南側)



を伝えていく新たな取り組みであり、個々の大学の利害を超えた社会貢献、アウトリーチ活動と見ることもできる。初年度教育で行われるべき教育プログラムを入試に組み込んだ高大接続の典型事例でもある。本学の学内改革も決して孤独ではなかった。全国には目標とすべき同志が多数存在している。新年の抱負は多々あるが、本学の羅針盤の針をしっかりと定め、正しい決断と確実な実行のもとに力強く歩みを進めたい。(以下次号)

中長期目標実施計画の 確立・実践に向けて

学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘



四 「実施計画策定にあたって」

「指標と羅針盤」

新年、戌年の犬にならって元気に過ごすつもりだが、学内改革に伴う苦勞や進まない状況に思わず立ち止まることもある。ところで、本学では二年前か

ら改革先進大学の視察を実施してきた。

一年目は共愛学院前橋国際大学と松本大学、二年目は下関にある梅光学院大学を訪れた。いずれの大学も学長のリーダーシップのもと見事に改革を成功させているが、一・二年で改革を成功させた訳ではない。それぞれ、「意識改革」「地域連携」「高校訪問を柱に改革を進め、十年以上の歳月を要してようやく現在の隆盛にたどり着いた。

早速本学では、視察のご縁もあり共愛学院前橋国際大学学長大森先生による全教職員対象の講演会実施に与かった。

もちろん、学内改革の成功例はこの三大学だけではない。「就職指導」に全力を注いだ金沢星陵大学、そして、現在全国の大学で取り組み出した入試制度改革で成功した大学もある。大阪にある追手門学院大学は800校近い全国の大学の中で、志願倍率の増え幅が全国の10傑に入る活躍を誇っている。現在、2016年に策定した第II期中期経営計画に基づく改革を進めているが、その取組の一つにアサティププログラム。

アサティプ入試がある。

アサティププログラムとは高校生に大学で学ぶ目的を考えさせ、学ぶ姿勢と意欲を持つことができるように育てるプログラムである。また、アサティプ入試はその成果を発揮する試験と位置づけられた新入試制度である。不本意入学者が多く、学生からの「国立公立大や関関同立に行けないと人生は終わりだ」という発言を改善したいという切なる願いから生まれた。

「追手門学院大学でいい」ではなく、「追手門学院大学がいい」という学生を増やすための取り組みである。

この入試の中でも特に注目に値するのは、主体性を評価するための個別面談を教員ではなく職員が担当することである。思いきった発想、改革と言える。

これはSD研修の一環でもあり、直接高校生と接することを体験することで在学している学生に対して、「全教職員で学生を育てている」という意識を高めることにつながり、相乗効果が生まれている。その他、積極的に展開している入学前課題に対しても、本来高校教育でやるべきことを補完しているというので高校側や保護者から評価を得ている。大学が広く高校生に学ぶ意味

1981年(昭和56年)以前に建築された本学校舎の1号館、2号館および体育館が耐震診断の対象となり、2017年(平成29年)4月から診断が開始された。結果は7月上旬にあり、2号館は補強、体育館は補強・非構造部材補強工事が必要ということであった。なお、1号館は改築(建替)であった。その後10月に各学部教授会で工事の概要が説明され、11月末から2号館および体育館の工事が始まった。2号館の工事は3月29日まであり、研究室がある数名の教員には暫しの間他の部屋に移動し

補強工事が終了すれば、学生、教員、職員にとって、先ずは安心・安全という証を得ることになる。

・文献

・私学を取り巻く諸情勢資料集(日本私立大学協会発行)、2017年(平成29年)

・我が国における私学の展望と諸課題(文部科学省高等教育局私学部長資料)、2017年(平成29年)

・教育芸術新聞(日本私立大学協会発行) 2018年(平成30年) 1月1日

・教育芸術新聞(日本私立大学協会発行) 2018年(平成30年) 1月1日

研究紹介 38

私の研究 — 統御する琴 —



文学研究科 教授 島山 篤

私は民俗学と日本古代文学の二足の草鞋を履いている。最近の民俗学の仕事は、拙著『岩木山の神と鬼』『北方新社・二〇一七年』である。幸いに売れ行きはいいようである。

古代文学の領域では、琴の用例を(1)神霊を統御する信仰的な場合、(2)自然を統御する呪術的な場合、(3)社会を統御する政治的な場合、(4)儀礼・芸能を統御する場合、(5)人格を統御する「左琴」の場合、(6)音楽と文学になっ

ている場合に分類し、そこにはほぼ共通する「統御」に注目している。(1)神霊を統御する信仰的な場合、司祭者が琴を弾いて神霊を統御し、シヤマンに神懸からせ

て託宣を得ている。この司祭者は次第に地域の有力者になり、(3)社会を統御している。その最高の存在が、祭政一致体制の頂点に立つ天皇だった。

この祭祀の場で(1)神霊を統御した琴は、その祭場で引き続き行われた(4)神事芸能・娯楽的な芸能をも統御・主導している。古事記・日本書紀に登場する宮廷の本格的な寿歌や歌物語・歌劇は、ほとんどこの琴に統御されてきた、と考えられる。

枯野(からの) 伝承によると、枯野琴を静かに弾きながら「枯野琴の歌」をうたうと(2)大坂湾の静けさがもたらされ、またこの歌と琴によって(4)河内王朝の首都圏(大坂湾と河内の国)の平安が祈願され、さらには仁徳朝の治世も謳歌されている。この枯野伝承については、拙著『河内王朝の山海の政―枯野琴と国栖奏―』(白土社・二〇一四年)に

談話室 子供の疑問



文学部 教授 今村かほる

子供が幼稚園の頃、しりとりの方について「あおき、おうちでやるときは、ダチョーって言うよ、ウシとかウサギとかとるよね。でも幼稚園のお友達だとチョーチョーっての。どっちが正しいの？」と尋ねられた。正直、ああ、難しいと思っ

子供が大学生になってすぐ「あおき、レポートってどうやって書くの？何が大事なの？」とされた。あいにくこちらは理系、こちらは文系なので的確な助言などできないのだが、学生にレポートの書き方を教えている身なので、一通りのことを教えた。そこで思い出したことがある。

子供が幼稚園の頃、しりとりの方について「あおき、おうちでやるときは、ダチョーって言うよ、ウシとかウサギとかとるよね。でも幼稚園のお友達だとチョーチョーっての。どっちが正しいの？」と尋ねられた。正直、ああ、難しいと思っ

詳しい。出雲神話に記す「天の詔琴(のりごと)」は、文字どおり(1)神霊を統御して託宣を下し、乱暴に弾くと(2)地震を引き起こしていった。家持が房前に贈った琴と歌は、中国から直輸入された「石書(うしよ) 左琴(さきん)」の思想を文芸化したものである。君子は四書と琴を愛し、その(5)人格を陶冶・統御するものである。(6)の音楽・文学としての琴の事例は、極少数である。してみると以上(1)〜(6)で一貫しているものは、「統御」である。以上の古代の琴は天皇を頂点にした身分の高い男性の専有物で、三種の神器(草薙の剣・八坂瓊の曲玉・八咫の鏡)に相当するレガリアだ、といえそうである。

「あおもり食育検定 公式テキスト」の紹介
あおもり食育検定委員会、委員長 吉岡 利忠
青森県には10の市と22の町と8の村で、計40市町村がある。三方を海に囲まれ白神山、十和田湖、岩木山、八甲田山連峰など美しく雄大な自然と、その中を岩木川、追良瀬川、奥入瀬川などが流れ、海の幸、山の幸の川に幸として新鮮な食材が豊富である。さらに、米、麦、蕎麦、野菜、果樹、生花、畜産など農林畜水産業が盛んであり他県では考えられないほど青森県民はそれらの恩恵を受けている。このように恵まれた環境で暮らす県民は、これらの「幸」を頂くことだけでなく、「食」に関する知識や情報、栄養風土資源、食文化、食育を含めたさまざまな知識を得たいという願いはもともとあることであろう。本ページには、平成29年度リカレント教育は盛会の中に終了することができました。リカレント教育は基礎教育の修了後、生涯にわたり教育と他の諸活動を交互に行う教育システムといわれています。本学では看護学部の開設以来、地域貢献のひとつとして看護師等が教育機関を利用して学習する機会として行ってきました。教育プログラムは現場の看護職の希望が「看護研究」にあることから、看護研究を中心に行っています。リカレント教育を開催した初年度からの一貫したテーマでもあります。毎年参加される方、また新たに追加される方がそれぞれのような期待をされておられるか、研修後の参加者アンケートの内容を参考に企画しています。本年度のテーマは前年度と同じく「リカレント教育の原点を

第13回看護学部 リカレント教育を終えて
看護学部 准教授 川村 泰子
見つめて」として、内容は一部継続する方法で行いました。参加者は延べ45人で、弘前市内の方が多く、職種は看護師、保健師、なかには精神保健福祉士もおられました。医療機関で看護師と共同で研究に取り組むことがあるので参加したということでした。それぞれの専門領域を超えて多職種がチームで取り組んでいる研究の現状を知る機会になりました。1回目は、文献の検討方法について論文のクリティク力を高めることについて幸山靖子准教授、量的研究において課題となる統計処理の基礎とアンケート結果分析方法の選定について小野綾講師から講義をいただきました。2回目は、肺に関する再学習として千葉正司教授から肺の構造と気管支・静脈の走行について、山中朋子弘前保

公式テキストは、カラーで印刷され農水畜産物の自然の状態を知ることができる。検定は本テキストから問題(50題)が出され、受験者には本テキストが無料で配布されホームページからもダウンロードできる。作成費用は3年間にわたって財団法人青森学術文化振興財団からの補助金により、さらに医療・食品関係の施設・企業からの広告費が充てられた。来年度のテキスト作成には、公益財団法人みちのくふるさと貢献基金(杉本康夫理事長)の助成金を獲得することができ、さらに内容の充実したテキストが期待される。現在のあおもり食育検定委員会のメンバーは、委員長の他、高澤直、佐藤春香(青森県農林水産部)、真野由紀子、北山育子(東北女子短期大学)、今村麻里子、前田朝美(東北女子大学)、佐藤千恵子(八戸学院大学短期大学部)、木村亜希子、千葉智、竹中恵理(青森中央短期大学)である。事務局は、青森中央短期大学地域連携課(017-728-0121)にお問い合わせいただきたい。多くの県民が本テキストを手にとりそして受検して欲しい。

健所長から結核と肺MAC症診断と管理について、三國裕子准教授(青森中央学院大学)から看護技術に関するエビデンスの紹介、筋肉・静脈内注射を中心としたテーマで講義をしていただきました。人体の構造と看護技術、また肺の構造について再学習した上で肺疾患について理解を深める機会となりました。3回目は、柳澤尚代教授から現場で役に立つ質的研究の進め方について講義とグループワークをしていただきました。質的研究における分析過程を体験することにより、取り組んでいる研究について、具体的な気づきもあつたようでした。また、塚本三枝子准教授からは研究テーマの抽出について、国際看護活動における途上国看護師が抱える看護課題について講義をいただきました。途上国の医療や保健の現状について写真等を含めてお話しいただき、国際看護を身近に考えなければならぬこと

あおもり食育検定 公式テキスト 2017
あおもり食育検定委員会



『石坂洋次郎・葛西善蔵の文学を学んで』

文学部 日本語・日本文学科二年 滝本 花菜

今年度の国語国文学会文学散歩は、九月と十一月の二度行われた。それぞれ石坂洋次郎、葛西善蔵と弘前市出身の作家について取り上げることにした。石坂は、昨年度の文学散歩で訪れた函館の遺愛女子中学・高等学校を舞台にした作品『若い人』の著者でもある。加えて、二〇一七年で小説『青い山脈』が発表されてから七十周年という節目の年を迎えたこともあり、石坂ゆかりの地を巡ることにした。また、石坂が師と仰いでいた葛西善蔵についても取り上げるようになった。



社会福祉学部コース入制を採用

社会福祉学部長 石田 和男

社会福祉学部では2016年より2コース制を敷くことになりました。コースの選択は、一年次の半ばに希望を出し、最終的に二年次から決めます。コースの定員の制限はありません。

社会福祉実践コース：社会の様々な場所で支援を心待ちにしていての人たちの生活とこころについての理解を深めるための学びをします。社会福祉の専門科目を多く学びます。修得単位数としては基礎教育科目10単位、支援科目50単位、専門科目70単位の計130単位以上です。

専ら、碓ヶ関閑所資料館を見学した。中でも文学碑は小高い丘の上にある。葛西の愛した碓ヶ関の町並みが一望出来た。小説『稚の若葉』から書き抜かれたその碑に、カップ酒が供えられていたのも酒好きの葛西らしい。公園の入口にあった解説板の一文に「文学碑が三笠山公園に建てられたのも、善蔵が(中略)こよなく愛し続けた碓ヶ関村の全景が永久に見渡せるようにとの願いからでもある」とあるのも、葛西がこの場所に愛されているのだと感ぜられ強く印象に残っている。

「地域総合文化研究所」講演会報告

文学研究科・准教授 入江 英弥

本学地域総合文化研究所では、本年度二回の講演会を開催した。ここに紹介したい。

第一回目は十月二十八日(土)に弘前市民会館大会議室を会場にして、二〇二〇年オリピック招致の舞台裏と地域活性化」と題する講演会を開催した。これは、「平成二十九年大学コンソーシアム学都ひろさき活性化支援事業費補助金対象事業の一つとして、本学社会福祉学部教授、西東克介氏のコーディネートにより行った。

最初に、西東氏が「新しいリーダー像」と題して新しいリーダー像とは何かを説かれ、組織の長や分掌責任者にはアドミニストレーション(経営)能力が不可欠であることを述べられた。規則など目に見えやすい手段で管理していくことが多いが、経営にはそれだけ



十一月には、葛西善蔵が少年時代を過ごした平川市碓ヶ関に足を運んだ。三笠山公園の文学碑、津軽三不動尊に数えられる古懸不動

十一月には、葛西善蔵が少年時代を過ごした平川市碓ヶ関に足を運んだ。三笠山公園の文学碑、津軽三不動尊に数えられる古懸不動

「第六回就活祭」報告

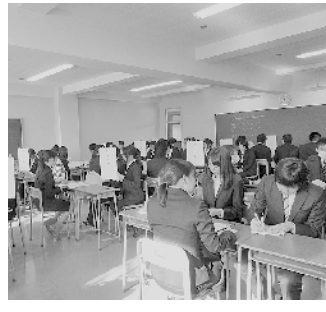
文学部 准教授 入江 英弥

今回の第六回就活祭(文学部・社会福祉学部四年生の就職内定者による就職活動報告会)は、テーマに「絆」を掲げ、従来行っていた冬季休業期間中ではなく、休み明けの一月十八日の平日の時間帯を利用して実施した。時間的にはタイトであったが、参加する学生にとっては時間の有効活用点ではよかったと思っている。

就活祭における四年生の報告は、一方的に就職内定に至る話を指しては、五年生と互いにディスカッションをしながら就職内定への道を探る双方向的な報告会である。

今回報告者の四年生の業種・職種は、小売・卸業、ホテル、銀行、新聞社、公務員、教員、福祉施設

第一番目に、本学文学部教授の井上諭一氏が、「ミステリーとSFの青森」と題して、「語あるいは地名としての『青森』の隣にあるもの」は何かを問題にされ、現代の諸ジャンルにおける「青森」の扱われ方を述べられた。サブカルチャーの分野では、「青森」は古代、神秘、樹木、霊的なものなどと結びつけられていると説かれた上で、佐藤正午の小説「月の満ち欠け」について、「青森」や「八戸」といった地名に注目すべきで、その「隣にあるもの」とは「青森」の伝説、あるいは都市伝説ではないかと推察された。

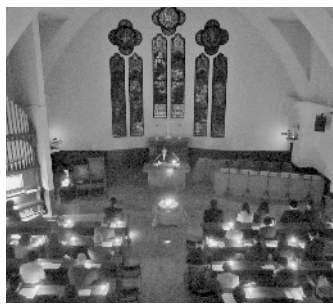


約五十名参加した三年生は、一様に先輩の話に耳を傾け多くの就職に関する情報を収集し、これから始まる就職に対してモチベーションを高め、就職の一步を踏み出していた。

今年度で六回を重ねる「就活祭」であるが、毎年見られる先輩から後輩への心のこもった言葉による「絆」は美しいものであり頼もしい限りである。(就職課)

2017年度クリスマス礼拝

2017年12月14日(木)午後4時から、本学礼拝堂において、クリスマス礼拝が行われました。厳肅な雰囲気の中、多くの学生・教職員が集い、パイオルガンの荘厳な響きや清らかなハンドベルの音色に包まれながら、キャンドルを灯し、弘前学院校友会会長の中田悦子先生による「イエス・キリストの誕生を支えたヨセフ」と題してメッセージをいただきました。



2017年度 弘前学院大学学位記授与式

文学部	第44回
社会福祉学部	第16回
看護学部	第10回
大学院社会福祉学研究科修士課程	第14回
大学院文学部研究科修士課程	第12回

◇日時：2018年3月17日(土) 午前10時～
◇場所：弘前学院大学体育館

卒業記念礼拝

◇日時：2018年3月16日(金) 午前10時～
◇場所：礼拝堂

*礼拝終了後、体育館において学位記授与式のリハーサルを行う。

卒業論文を終えて



看護学部 看護学科四年 工藤 里美

弘前にも雪が降り積もるようになつた12月上旬。4月から取り組んできた卒業論文を提出し、研究を終えることができた。

私は「アトピー性皮膚炎とその看護についての文献検討」というテーマで研究を進めてきた。現在、医療が発達しアトピー性皮膚炎は完治するものとなったが、一方で子どもの症状悪化や治療の遷延を招いている例も多くある。私自身アトピー性皮膚炎を患っていたこともあり、治療が確立されているにも関わらず未だアトピー性皮膚炎によって苦しむ患児やその家族に対し、看護介入することで症状を軽減することができているのではないかと考えたことがテーマを決めるきっかけとなった。そしてアトピー性皮膚炎の完治を目指すにあ

たり、患児に対するアドヒアランスを向上するための適切な指導や関わり方を学びたいと思い指導教員と共に卒業論文を進めた。卒業研究では、アトピー性皮膚炎を罹患した乳幼児から学童期まで、またその母親及び家族に対する看護を対象にした。そして、文献毎に行なわれている治療や看護、その効果などを分類し考察した。文章の構成や研究内容毎の抽出など、つまずくことも多くあったが指導教員と相談し合いながら内容を整理し、研究を進めることができた。

卒業研究を終えて、関心のある内容を掘り下げて学ぶ楽しさや、長期間研究することの大変さ、難しさを学ぶことができた。この期間、病院実習や就職活動、国家試験勉強と並行して進めたため、忙しい日々を過ごしていたが毎日が充実していたと感じる。4年間学んできた「看護」について、各々興味を抱いた内容を研究し、知識

国語国文学会冬季大会・卒業論文発表会

文学部 日本語・日本文学科三年 工藤 早紀

一月二十日(土)、本学にて国語国文学会冬季大会と卒業論文発表会が開催され、内外から百十名が参加した。

今年度実施した「文学散歩について」、学会委員の前田佳彦氏と滝本花菜氏が「石坂洋次郎・葛西善藏ゆかりの地を巡る」を報告した

後、本学大学院文学研究科教授の顧偉良氏が「中国の小詩運動と写生文の影響関係―周作人と『新しき村』との出会いをめぐる―」という題目で講演を行った。また、第一部として卒業論文発表会が行

われ活発な質疑応答が交わされた。発表者とタイトルは以下の通り。小野寺千尋「現代日本雑誌論―電子書籍を中心に―」

工藤将輝「御伽草子『鉢かつぎ』における「鉢」の働き」

社会福祉実習体験報告会を終えて



社会福祉学部 社会福祉学科三年 田中 菜穂

2017年12月2日、社会福祉実習体験報告会を行いました。私は報告として実習の課題や内容学んだこと、残された課題について報告しました。実習課題は、相談援助の過程で生じる倫理上のジレンマの存在とそのような場面に遭遇した際にどのような視点や信

念を持つべきかについて学ぶことと設定しました。実習内容として前半では、地域包括支援センターや各事業所などの講義が中心であり、後半では、担当する利用者を決めサービス支援計画書の作成を行いました。また、実習中は必要に応じて職員との同行訪問や相談来所者への対応、面接への同行を行っていました。実習を通して学びとして、倫理上のジレンマの存在は社会福祉士にとっても身近な存在であり、絶えずそうした環境に身を置く仕事であるという理解や、対処方法として「多職種連携」の信念を持つ、という私なりの学びを得ることができました。残された課題としては、「多職種連携」の信念をもって実践する機会を持てず、私自身この信念を体得できたのかどうか確かめることができなかったことです。

本間一磨「津軽方言の程度の副詞の研究」

幸田寿子「津軽方言の場面差に関する考察―高校生の方言使用に注目して―」

英語・英米文学科の二大イベント

文学部 英語・英米文学科三年 西村 和晃

毎年、英語英米文学科では、学生がアイデアを出し合ってハロウィンパーティとクリスマスパーティを開催する。各学年の学会委員が集まり、その年のパーティの

実感し、とても悔しい思いで報告を終えました。しかし、こうした経験は今後社会に出てからも必ず役立つと思うので、この悔しかった思いを反省するだけでなく改善し、今年の精神保健福祉実習に向けて勉強に励んでいきたいと思いをしました。後輩に対するアドバイスとして、実習では設定した課題通りに学ぶことが出来ないことも多いと、課題の達成だけにこだわらな

冬季大会はこんなものなのかと何となく大会の雰囲気を知ったかと思いきや、今年度は委員長としていきなり大会をまとめる立場となっていました。不安なことばかりで、大会を成功させる自信がなかった。だが、副委員長や執行部のメンバーを始め、学会委員たちの協力に支えられ、大会を終わらせることができた。学会委員のみならずには感謝の気持ちでいっぱいである。特に、一、二年生には来年度も安心して学会を任せられると思う。ぜひ、来年度も学会委員として頑張ってほしい。

プログラムを考案する。先に行われるのはハロウィンパーティだ。学生が一番楽しみにしている、且つ一番力を入れるプログラムが仮装大会である。パーティに参加する学生が各々好きな映画やアニメのキャラクターに扮して、そのクオリティやユーモアをアピールし、多数決でその年の仮装大会の優勝者を決めるのである。もちろん学生だけでなく、教授も仮装し、大いに盛り上がる。個人での参加やペアでの参加など、多種多様な仮装を見て楽しむことができる。また今年のハロウィンパーティではジャックランタンも作成した。ナイフとスプーンを使い、世界に一つだけのデザインのランタンが完成した。約十個のランタンが完成し、最後にはランタンの中にキャンドルを入れ、部屋を暗くし、暗闇に映える怪しくも可愛らしさがあるジャックランタンを鑑賞した。

十二月に入るとクリスマスパーティが行われる。パーティが始まる前に、少し大きめのクリスマスツリーに学生が装飾を施す。このパーティでは紙とペンを使ってクリスマスにちなんだイラストを英語で答えるゲームや、海外では定番のクリスマスソングを、学生で輪になり合唱するなど、英文科らしく、英語を使って楽しめるプログラムとなっている。また、決められた予算で準備するプレゼント交換は、どのプレゼントが自分の手元に残るのが分らない、ハラハラドキドキな展開であった。個性的なプレゼントに笑いが絶えない時間であった。

英文科が開催するイベントの最大の面白さというのが、学生、教授の垣根を越えて交流ができることである。普段は交流のない異学年間の交流はもちろん、講義の場以外での教授らとの交流はとても新鮮味がある。講義中では話せないようなことや、日常的なことま

弘前での一年

呉東珍



まだ雪だらけだった3月から約1年が経ち、あつという間にまた冬になりました。帰国を目前に控えている今、帰りたいかと思っ

てしまふほど寂しい気持ちです。弘前と弘前学院大学のような素晴らしい所で過ごすことができて幸いだったと思います。大学生活は学ぶことばかりでした。日本語はもちろん、日本の文化や慣習についても教えてもらいました。また、日本のパソコンで

作業をしたり、日本のキリスト教について学んだりした他、外国人学習者に日本語を外国語として教えることも学習しました。全て有意義で、勉強になりました。勉強だけでなく、春には新入生と一緒にリトリートに参加したり、秋には大学祭や津軽の文学ゆかりの地をまわる文学散歩にも行って、とても楽しかったです。大学の外でも、様々な経験ができました。五所川原のたちねぶた



で、学生と教授との距離が近いヒロガクならではの有意義な時間が流れる。この二大イベントは、英語圏の国の文化への関心を深めるとともに、学生間の人間関係と、学生と教授の間の人間関係を充実させ、学部が一体となって素晴らしい大学生活を築いていくことができるものである。